

令和 7 年 度

編入学者募集要項

(出願書類添付)

入 学 案 内

願 書 受 付 期 間	令和 6 年 7 月 2 日 (火) ~ 7 月 5 日 (金)
学 力 検 査 日	令和 6 年 9 月 5 日 (木)
合 格 者 発 表 日	令和 6 年 9 月 11 日 (水)



独立行政法人国立高等専門学校機構

一 関 工 業 高 等 専 門 学 校

National Institute of Technology, Ichinoseki College

〒021-8511 岩手県一関市萩荘字高梨

電 話 0191-24-4717(学生課教務係)

F A X 0191-24-4530(学生課)

<https://www.ichinoseki.ac.jp/>



一関高専ホームページ

目 次

アドミッション・ポリシー	1
I. 一般選抜	1
1 編入学者選抜を実施する系、募集人員及び編入学年	1
2 出願資格	1
3 志望する系	2
4 出願手続	2
5 選抜方法	3
6 携帯品	3
7 合格者発表	4
II. 社会人特別選抜	4
1 編入学者選抜を実施する系、募集人員及び編入学年	4
2 出願資格	4
3 出願手続	5
4 選抜方法	6
5 携帯品	6
6 合格者発表	6
III. 個人情報の取り扱いについて	6
入 学 案 内	7
1 未来創造工学科の紹介	8
2 教育課程表	9
3 編入学時に必要な経費	14
4 入学料・授業料の減免	14
5 奨学金制度	14
6 寄宿舍	15
ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	16
郵便局（ゆうちょ銀行）からの検定料の振込みについて	18

◎ 添 付 用 紙

■一般選抜

編入学願書

■社会人特別選抜

編入学願書、推薦書（承諾書）、志望理由書、業務報告書

■共通

写真票・受験票・振込金証明書貼付票、振込依頼書・領収書・振込金証明書

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

○求める学生像

- ・高等学校において工学の基礎となる知識を身につけ、入学後の学修に対応できる基礎学力を有している人
- ・他者の意見を聞き、適切な判断に基づき、自らの考えを表現できる人
- ・他者を思いやることができ、責任ある行動をとることができる人

○入学者選抜の基本方針

本校の求める学生像に合致した人を選抜するため、一般選抜、社会人特別選抜を実施します。

一般選抜では、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、学力検査（数学、英語、専門）、調査書及び面接の総合評価によって選抜します。

社会人特別選抜では、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、書類審査、面接及び小論文の総合評価によって選抜します。

I. 一般選抜

1 編入学者選抜を実施する系、募集人員及び編入学年

学 科	系	募集人員	編入学年
未来創造工学科	機 械 ・ 知 能 系	若干名	第 4 学年
	電 気 ・ 電 子 系	若干名	
	情報・ソフトウェア系	募集しない	
	化 学 ・ バ イ オ 系	若干名	

2 出 願 資 格

次のいずれかに該当するものとします。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和 7 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 高等専門学校において第 3 学年の課程まで修了し、退学した者
- (3) 次のア～エに該当するもので、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和 7 年 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者
 - (ア)外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (イ)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (ウ)専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (エ)高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

3 志 望 す る 系

「1 編入学者選抜を実施する系、募集人員及び編入学年」欄にある編入学選抜を実施する系、「機械・知能系、電気・電子系、化学・バイオ系」から一つを選択し、出願書類に記載してください。

4 出 願 手 続

(1) 願 書 受 付

① 受 付 期 間 令和6年7月2日(火)から令和6年7月5日(金)まで

② 受 付 時 間 午前9時から午後4時まで

郵送する場合は、7月5日(金)午後4時必着

③ 受 付 場 所 一関工業高等専門学校 学生課教務係

〒021-8511 岩手県一関市萩荘字高梨

TEL 0191-24-4717

(注) 郵送の場合は、必ず書留郵便とし、封筒の表に「編入学願書在中」と朱書きしてください。

(2) 出 願 書 類 等

志願者は、次表の書類等を在籍(出身)学校長を経て提出してください。

入 学 願 書	本校所定の用紙に必要事項を記入してください。
写真票・受験票	本校所定の用紙に必要事項を記入してください。なお、写真票に貼付する写真は、出願前3ヶ月以内に撮影した、上半身・無帽・正面向きの縦4cm×横3cmの大きさのもの。
調 査 書	在籍(出身)学校所定の用紙に、学校長が記入の上、厳封したものを提出してください。
卒業証明書又は 卒業見込証明書	在籍(出身)学校所定の用紙に、学校長が証明したものを提出してください。
入 学 検 定 料	16,500 円 振込依頼用紙(本校所定)に記入の上、振込の手続きを行い、振込金証明書を振込金証明書貼付票欄に貼り付けて提出してください。 郵便局(ゆうちょ銀行)からの振込は、「郵便局(ゆうちょ銀行)からの検定料の振込みについて」(P18)を参照してください。
返 信 用 封 筒 (受験票送付用)	長形3号の封筒に志願者の住所・氏名・郵便番号を明記して、244円分の切手を貼付してください。

(3) 出願にあたっての留意事項

- ① 受験上、障害等を理由に合理的配慮の提供を希望する場合は、出願に先立って、学生課教務係に相談してください。なお、合理的配慮に関する希望及び問い合わせ内容は、入学者選抜の合否判定に一切影響ありません。
- ② 出願書類の氏名は、すべて戸籍上の文字で記入してください。
- ③ 出願関係書類受理後は、志望系の変更は認めません。
- ④ 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- ⑤ 受理した出願書類及び検定料は、返還しません。
- ⑥ 出願に関しての不明な点は、学生課教務係に問い合わせてください。

5 選 抜 方 法

入学者の選抜は、学力検査（数学 100 点満点、英語 100 点満点、専門 100 点満点の合計 300 点満点）、調査書（330 点満点）及び面接（30 点満点）の総合点で判定します。なお、学力検査（専門）は、口頭試問により行います。

また、学力検査の総合点または各科目の得点が本校の定める基準に達しない場合は不合格となります。

(1) 学力検査及び面接の日時

令和 6 年 9 月 5 日（木）		
数 学	英 語	面接、専門（口頭試問）
9:30～11:00	11:15～12:00	13:00～

(2) 学力検査科目

系	教科	科 目	学力検査の範囲
共 通	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ	全範囲
	英語	英語コミュニケーションⅠ	全範囲
機械・知能系	専門	機械工作	機械工作法の発達、機械材料、鋳造、溶接、塑性加工
		機械設計	機械と設計、機械に働く力、材料の強さ、ねじ、軸とその部品
電気・電子系	専門	電気回路	電気回路の要素、直流回路、交流回路（三相交流を除く）
化学・バイオ系	専門	工業化学	物質の構成、元素と無機化合物、有機化学
		化学工学	物質収支、流体輸送、熱の移動

※数学、英語：筆記試験

※専門：口頭試問（ホワイトボードを使用する場合があります。）

(3) 学力検査及び面接の実施場所 一関工業高等専門学校

集合場所は受験票の裏に記入して受験者に送付します。

6 携 帯 品

筆記用具（黒鉛筆（HB）、鉛筆削り、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、消しゴム）、受験票、昼食。

※ 検査室においては、持参した時計はアラーム等の音が出ないように設定してカバンにしまってください。

また、携帯電話等の電子機器は電源を切ってカバンにしまってください。

7 合格者発表

令和6年9月11日(水)正午、本校掲示及びホームページ(<https://www.ichinoseki.ac.jp/>)で合格者の受験番号を発表するとともに、在籍(出身)学校長宛に可否を文書で通知し、併せて合格者に「合格通知書」を送付します。なお、電話等による可否の問い合わせには一切応じられません。

Ⅱ. 社会人特別選抜

1 編入学者選抜を実施する系、募集人員及び編入学年

学 科	系	募集人員	編入学年
未来創造工学科	機 械 ・ 知 能 系	若干名	第4学年
	電 気 ・ 電 子 系	若干名	
	情報・ソフトウェア系	募集しない	
	化 学 ・ バ イ オ 系	若干名	

2 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当し、技術分野の業務に2年以上従事している者(令和7年3月末で2年以上となる者を含む)で、卒業後、在職する企業に戻ることを前提とし、勤務先の所属長(代表者又は準ずる者)が推薦する者としてします。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 高等専門学校において第3学年の課程まで修了し、退学した者
- (3) 次のア～エに該当するもので、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
 - (ア) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (イ) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (ウ) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (エ) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

3 出 願 手 続

(1) 願 書 受 付

① 受 付 期 間 令和6年7月2日(火)から令和6年7月5日(金)まで

② 受 付 時 間 午前9時から午後4時まで

郵送する場合は、7月5日(金)午後4時必着

③ 受 付 場 所 一関工業高等専門学校 学生課教務係

〒021-8511 岩手県一関市萩荘字高梨

TEL 0191-24-4717

(注) 郵送の場合は、必ず書留郵便とし、封筒の表に「編入学願書在中」と朱書きしてください。

(2) 出 願 書 類 等

入 学 願 書	本校所定の用紙に必要事項を記入してください。
写真票・受験票	本校所定の用紙に必要事項を記入してください。なお、写真票に貼付する写真は、出願前3ヶ月以内に撮影した、上半身・無帽・正面向きの縦4cm×横3cmの大きさのもの。
推薦書(承諾書)	本校所定の用紙に勤務先の所属長が作成してください。
志 望 理 由 書	本校所定の用紙に記入してください。
業 務 報 告 書	本校所定の用紙に業務内容の概要を記入してください。
調 査 書	出身学校所定の用紙に、学校長が記入の上、厳封したものを提出してください。
卒 業 証 明 書	最終学校の卒業証明書を提出してください。
在 職 証 明 書	様式は任意です。ただし、在職期間が記入されているものを提出してください。
入 学 検 定 料	16,500 円 振込依頼用紙(本校所定)に記入の上、振込の手続きを行い、振込金証明書を振込金証明書貼付票欄に貼り付けて提出してください。 郵便局(ゆうちょ銀行)からの振込は、「郵便局(ゆうちょ銀行)からの検定料の振込みについて」(P18)を参照してください。
返 信 用 封 筒 (受験票送付用)	長形3号の封筒に志願者の住所・氏名・郵便番号を明記して、244円分の切手を貼付してください。
そ の 他	現に日本国内に在住する外国人は、市区町村長が発行する「住民票謄本」を提出してください。

(3) 出願にあたっての留意事項

- ① 受験上、障害等を理由に合理的配慮の提供を希望する場合は、出願に先立って、学生課教務係に相談してください。なお、合理的配慮に関する希望及び問い合わせ内容は、入学者選抜の合否判定に一切影響ありません。
- ② 出願書類の氏名は、すべて戸籍上の文字で記入してください。
- ③ 出願関係書類受理後は、志望系の変更は認めません。
- ④ 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- ⑤ 受理した出願書類及び検定料は、返還しません。
- ⑥ 出願に関しての不明な点は、学生課教務係に問い合わせてください。

4. 選 抜 方 法

書類審査、面接（口頭試問含む）及び小論文の結果に基づいて総合的に判定します。

面接は、志望理由書、業務報告書、基礎学力等について口頭試問等を行います。

(1) 検査の日時

令和6年9月5日（木）	
小論文	面接（口頭試問含む）
10:00～10:50	11:00～

(2) 検査の実施場所

一関工業高等専門学校

集合場所は受験票の裏に記入して受験者に送付します。

5 携 帯 品

筆記用具（黒鉛筆（HB）、鉛筆削り、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、消しゴム）、
受験票、昼食

※ 検査室においては、持参した時計はアラーム等の音が出ないように設定してカバンにしまってください。

また、携帯電話等の電子機器は電源を切ってカバンにしまってください。

6 合 格 者 発 表

令和6年9月11日（水）正午、本校掲示及びホームページ(<https://www.ichinoseki.ac.jp/>)
で合格者の受験番号を発表するとともに、推薦者宛に可否を文書で通知し、併せて合格者に「合格
通知書」を送付します。なお、電話等による可否の問い合わせには一切応じられません。

Ⅲ. 個人情報の取り扱いについて

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

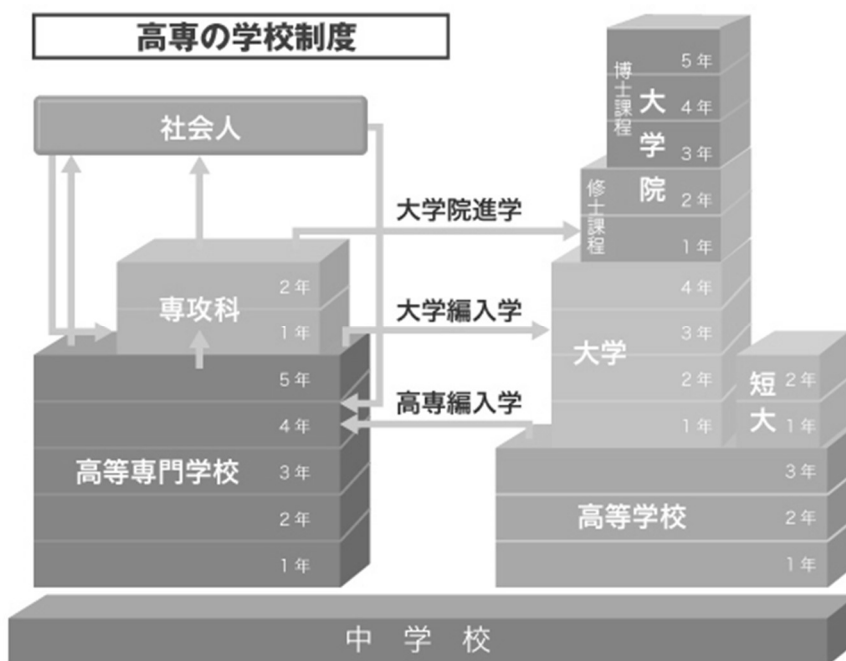
入学案内

高等専門学校は、本来中学校卒業者を受け入れ、5 年間の一貫教育により専門の技術者を養成する高等教育機関ですが、本校は 4 年次へ工業系及び普通科（理系コース）・理数科の高等学校の卒業生を受け入れるよう門戸を開いています。

工業高等専門学校 の 4、5 年の課程は、理論と実践技術の一体化を図り、時代の変化に即応できる能力を身につけることにあり、特に 5 年次の卒業研究では、教員との 1 対 1 の指導を受けながら、研究開発に必要な能力を養います。

高等学校を卒業して技術を習得した諸君にとっても、編入学することにより一段とその能力を伸ばすことができます。

卒業後は、大学の工学部に準じた、しかもより実践的な技術者として、大学卒より2年早く社会で活躍できます。また、高専の専攻科に進学する道や大学の3年次に編入学する道もあります。



1 未来創造工学科の紹介

未来創造工学科は、1 学科 4 系（機械・知能、電気・電子、情報・ソフトウェア、化学・バイオ）7 分野の教育体制をとっています。第 2 学年進級時に 4 系に分かれますが、第 4・5 学年では系の専門教育だけでなく、系を横断した分野別専門教育を受けることができます。このような分野の配置と学生の選択により、自分の専門以外の分野を幅広く学習することができます。これにより、多様化する社会のニーズに柔軟に対応できるとともに、所属する系の壁を越え、学生が興味をもった他分野の学習・研究に自ら取り組みやすくなっています。

4 系で養成する人材像

機械・知能系

機械工学を基盤とした設計、機械要素、材料、加工、力学、熱流体、制御、計測等の専門知識を学修するとともに、実験・実習・研究などの課題発見・課題解決型教育を通して、実践的かつ異分野横断的に機械系分野の技術を習得します。さらに、次世代ロボット、EV などの次世代自動車、再生可能エネルギー利用などの応用的な分野で必要となる専門知識や技術を修得することにより、実践的・創造的技術を有する次世代の機械系技術者を養成します。

電気・電子系

電気工学および電子工学にかかわる電気磁気現象、電気回路、電子回路、電気機器、電力、材料、エネルギー等の専門知識を学修するとともに、実験・実習・研究などの課題発見・課題解決型教育を通して、実践的かつ横断的に電気・電子分野の技術を習得します。さらに、電子機器や自動車の制御など応用的な分野や電力分野で必要となる専門知識や技術を修得することにより、実践的・創造的技術を有する次世代の電気系技術者を養成します。

情報・ソフトウェア系

情報工学にかかわるソフトウェア設計、データ構造とアルゴリズム、ネットワークシステム、人工知能、符号理論等の専門知識を学修するとともに、実験・実習・研究などの課題発見・課題解決型教育を通して、実践的かつ横断的に情報・ソフトウェア分野の技術を習得します。さらに、ロボットや自動車の制御など応用的な分野で必要となる専門知識や技術を修得することにより、実践的・創造的技術を有する次世代の情報系技術者を養成します。

化学・バイオ系

化学製品を効率的に生産するための「化学工学」と、微生物や酵素を利用するための「生物工学」を中心に、化学プロセスや計測制御、生化学や微生物工学などの専門知識を学修するとともに、反応工学や計測制御、酵素反応や遺伝子工学などの実験を行うことによって、実践的かつ横断的に化学・バイオ分野の基礎を身につけます。さらに、環境・エネルギー問題にも正しい知識と関心を持ちながら、生活を豊かにする化学製品（プラスチック、医薬品、食品、新素材など）の製造や分析に関わる技術を身に付け、化学工業や石油、食品、医薬品製造、環境分析の分野で活躍する次世代の化学・バイオ系技術者を養成します。

2 教育課程表

一般科目

区分	授業科目	開設 単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語 I	2	2					
	国語 II A	※2		2				
	国語 II B	1		1				
	国語 III	2			2			
	日本語表現法	1				1		
	文学	1				1		
	地理	1	1					
	歴史	2	2					
	倫理	2		2				
	政治・経済	※2			2			
	基礎数学 I A	2	2					
	基礎数学 I B	2	2					
	基礎数学 II	2	2					
	微分積分 I A	2		2				
	微分積分 I B	2		2				
	微分積分 II	2			2			
	線形代数 I	2		2				
	線形代数 II	1			1			
	解析学 I	2			2			
	解析学 II	1			1			
	基礎物理	1	1					
	物理 I A	2		2				
	物理 I B	1		1				
	化学 I A	1	1					
	化学 I B	1	1					
	化学 II A	1		1				
	化学 II B	1		1				
	生物・地学	1	1					
	保健体育 I	2	2					
	保健体育 II	2		2				
	保健体育 III	2			2			
	体育	2				2		
	総合英語 I A	2	2					
	総合英語 I B	2	2					
	総合英語 II A	1		1				
	総合英語 II B	2		2				
	英会話	1		1				
	総合英語 III A	1			1			
	総合英語 III B	1			1			
	英語表現 I	※2		2				
	英語演習 I	※2				2		
	英語演習 II	※2					2	
	第二外国語 I	※2				2		ドイツ語または中国語のいずれかを修得
必修科目単位数計			69	21	24	14	8	2
選択必修科目	物理 II A	1			1			機械・知能系, 化学・バイオ系は II A・II Bを修得 電子・電気系, 情報・ソフトウェア系は II C・II Dを修得
	物理 II B	1			1			
	物理 II C	1			1			
	物理 II D	1			1			
	音楽	2		2				音楽または美術のいずれかを修得
	美術	2		2				
	哲学	2					2	哲学または歴史学または法学 または経済学のいずれかを修得
	歴史学	2					2	
	法学	2					2	
	経済学	2					2	
選択必修科目開設単位数計			16	0	4	4	0	8
選択必修科目単位数計			6	0	2	2	0	2
必修履修科目	人文社会科学 I	2				2		
	人文社会科学 II	※2					2	
	英語表現	※2			2			
	第二外国語 II	1					1	
必修履修科目開設単位数計			7	0	0	2	2	3
選択科目	課題研究 I	1			1			
	課題研究 II	4			1~4			
選択科目開設単位数計			5	5	5	5	5	5
選択科目履修可能単位数計			5	5	5	5	5	5
一般科目開設単位数合計			97	26	33	25	15	18

開設単位数の※は学則第14条第4項に規定する科目である。

注意事項

- (1) 選択必修科目は、グループ別に指定された科目(6単位)を修得すること。
- (2) 選択科目の課題研究 I, 課題研究 II の履修方法等についての詳細は、課題研究に関する規則を参照のこと。
- (3) 第二外国語は、ドイツ語と中国語から選択すること。

専門科目

機械・知能系

区分	授業科目	開設 単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	1				1		
	微分方程式Ⅰ	1				1		
	確率・統計Ⅰ	1					1	
	応用物理Ⅰ	※2			2			
	機械工作法Ⅰ	2		2				
	機械工作実習Ⅰ	2		2				
	機械加工学Ⅰ	1			1			
	工業力学Ⅰ	1			1			
	材料力学Ⅰ	1			1			
	材料工学Ⅰ	1			1			
	メカニクスⅠ	※2			2			
	電気工学Ⅰ	1			1			
	情報処Ⅰ	1			1			
	機械設計実習Ⅰ	2		2				
	機械システム設計実習Ⅰ	2			2			
	機械システム制御実習Ⅰ	2			2			
	機械・知能システム実験Ⅰ	2				2		
	機械総合設計実習Ⅰ	2					2	
	情報リテラシーⅠ	2	2					
	基礎製図Ⅰ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅰ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅱ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅲ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅳ	1	1					
必修科目(系基幹科目)	系導入セミナーⅠ	2	2					
	未来創造セミナーⅠ	1			1			
	分野展開セミナーⅠ	1			1			
	分野専門セミナーⅠ	1				1		
	卒業業務研究Ⅰ	10					10	
	必修科目単位数計	49	9	6	16	5	13	
	材料力学Ⅱ	※2				2		
	材料工学Ⅱ	※2				2		
	機械力学Ⅱ	※2				2		
	熱力学Ⅱ	※2				2		
	流体力学Ⅱ	※2				2		
	メカトロニクスⅡ	※2				2		
	基礎制御工学Ⅱ	1				1		
	機械設計・要素Ⅱ	2				2		
	数値・情報解析Ⅱ	1				1		
	CADⅡ	1				1		
	伝熱工学Ⅱ	※2					2	
	エネルギー変換工学Ⅱ	※2					2	
	応用制御工学Ⅱ	1				1		
	熱機関Ⅱ	※2					2	
	応用機械材料工学Ⅱ	※2					2	
	工作機械Ⅱ	※2					2	
	計測工学Ⅱ	※2					2	
	ロボット工学Ⅱ	※2					2	
	地域創造Ⅱ	1				1		
	実践技術Ⅱ	1				1		
	実践技術Ⅲ	1					1	
	工業英Ⅱ	※2					2	
	系基幹科目単位数計	37	0	0	0	19	18	
選択科目(分野展開・系発展科目)	環境・エネルギー概論Ⅰ	※2				2		* 環境・エネルギー分野
	環境・エネルギー概論Ⅱ	※2				2		
	環境・エネルギー特論Ⅰ	※2					2	
	機械学Ⅱ	※2				2		
	アドバンスロボティクスⅡ	※2				2		* 知能・システム分野
	知能・システム概論Ⅱ	※2					2	
	先端機能性材料工学Ⅱ	※2				2		
	マテリアル特性評価Ⅱ	※2				2		* 加工・マテリアル分野
	先端複合加工Ⅱ	※2					2	
	データサイエンスⅡ	※2				2		
	パターン認識Ⅱ	※2				2		インフォマティクス分野
	計算幾何Ⅱ	※2					2	
	電子工学Ⅱ	※2				2		
	電気通信Ⅱ	※2				2		エレクトロニクス分野
	デジタル信号処理Ⅱ	※2					2	
	化学プロセスⅡⅠ	※2				2		
	化学プロセスⅡⅡ	※2				2		化学プロセス分野
	化学プロセスⅡⅢ	※2					2	
	生化学ⅡⅠ	※2				2		
	生化学ⅡⅡ	※2				2		生物機能分野
	微生物工学Ⅱ	※2					2	
	分野展開・系発展科目単位数計	42	0	0	0	28	14	
選択科目	校外実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB	6				1～6		校外実習ⅠAまたは校外実習ⅠBのいずれかを必ず履修修得すること
	課題研究Ⅰ	5			1～5			
	課題研究Ⅱ	4			1～4			
	選択科目開設単位数計	94	7	7	9	58	43	
	選択科目履修可能単位数計	64	7	7	9	38	33	
専門科目開設単位数合計			143	16	13	25	63	56

開設単位数の※は学則第14条第4項に規定する科目である。

注意事項

- (1) 必修科目(系基幹科目)は、全て履修すること。
- (2) 選択科目(分野展開・系発展科目)については、*を付した分野より必ず1分野選び、3科目全て履修すること。
注: 選択した分野以外の「選択科目(分野展開・系発展科目)」も履修可とするが、*を付していない分野の科目は、時間割編成上履修できない場合がある。
- (3) 校外実習は、長期休業期間中に集中講義の形式で実習を主体として実施される科目である。
履修方法についての詳細は、校外実習に関する規則を参照のこと。
- (4) 選択科目の課題研究Ⅰ・Ⅱの履修方法等についての詳細は、課題研究に関する規則を参照のこと。

電気・電子系

区分	授業科目	開設 単位数	開設単位数		学年別配当単位数					備考
			認定	認定外	1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	※2		2				2		
	応用数学Ⅱ	※2		2				2		
	応用物理Ⅰ	※2		2			2			
	電気磁気学Ⅰ	1	1				1			
	電気回路Ⅰ	1	1			1				
	電気回路Ⅱ	2	2				2			
	デジタル回路Ⅰ	1	1			1				
	デジタル回路Ⅱ	1	1				1			
	電子回路Ⅰ	1	1				1			
	電気機器Ⅰ	※2	2				2			
	プログラミングⅠ	1	1			1				
	プログラミングⅡ	1	1				1			
	電気電子製図	1	1			1				
	電気情報工学基礎実験Ⅰ	2	2			2				
	電気情報工学基礎実験Ⅱ	4	4				4			
	電気情報工学応用実験Ⅰ	2	2					2		
	電気情報工学応用実験Ⅱ	2	2						2	
	創成工学実験	2	2					2		
	情報リテラシー	2		2	2					
	基礎製図	1	1		1					
	ものづくり実験実習M	1		1	1					
	ものづくり実験実習E	1		1	1					
	ものづくり実験実習I	1		1	1					
	ものづくり実験実習C	1		1	1					
	系導入セミナー	2		2	2					
	未来創造セミナー	1		1			1			
	分野展開セミナー	1		1			1			
	分野専門セミナー	1		1				1		
	卒業業務研究	10		10					10	
必修科目単位数計		52	25	27	9	6	16	9	12	
必修科目（系基幹科目）	基礎力学	※2		2				2		
	電気磁気学Ⅱ	2	2					2		
	電気磁気学Ⅲ	※2	2						2	
	電気回路Ⅲ	※2	2					2		
	電気回路Ⅳ	※2	2						2	
	電気機器Ⅱ	2	2					2		
	電気電子材料	1	1					1		
	パワーエレクトロニクス	1	1						1	
	制御工学	※2	2						2	
	発電・変電工学	※2	2					2		
	送配電工学	※2	2						2	
	高電圧工学	※2	2					2		
	電気電子計測	※2	2						2	
	電気応用工学	※2	2						2	
	電子回路・電気機器設計	※2	2						2	
	電気法規・電気施設管理	1	1						1	
	地域創造学	1		1				1		
	実践技術Ⅰ	1		1				1		
	実践技術Ⅱ	1		1					1	
	工業英語	※2		2					2	
系基幹科目単位数計		34	27	7	0	0	0	15	19	
選択科目（分野展開・系発展科目）	環境・エネルギー概論Ⅰ	※2		2				2		* 環境・エネルギー分野
	環境・エネルギー概論Ⅱ	※2		2				2		
	環境・エネルギー特論	※2		2					2	
	機械学	※2		2				2		* 知能・システム分野
	アドバンスロボティクス	※2		2				2		
	知能・システム概論	※2		2					2	
	先端機能性材料工学	※2		2				2		* 加工・マテリアル分野
	マテリアル特性評価工学	※2		2				2		
	先端複合加工工学	※2		2					2	
	データサイエンス	※2		2				2		インフォマティクス分野
	パターン認識	※2		2				2		
	計算幾何学	※2		2					2	
	電子工学	※2		2				2		* エレクトロニクス分野
	電気通信	※2		2				2		
	デジタル信号処理	※2		2					2	
	化学プロセス工学Ⅰ	※2		2				2		化学プロセス分野
	化学プロセス工学Ⅱ	※2		2				2		
	化学プロセス工学Ⅲ	※2		2					2	
	化学Ⅰ	※2		2				2		生物機能分野
	生化学Ⅱ	※2		2				2		
	微生物工学	※2		2					2	
分野展開・系発展科目単位数計		42	0	42	0	0	0	28	14	
選択科目	校外実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB	6		1～6				1～6		校外実習ⅠAまたは校外実習ⅠBのいずれかを必ず履修修得すること
	課題研究Ⅰ	5		1～5				1～5		
	課題研究Ⅱ	4		1～4				1～4		
	選択科目開設単位数計	91	27	64	7	7	9	54	44	
	選択科目履修可能単位数合計	61			7	7	9	34	34	
	専門科目開設単位数合計	143	52	91	16	13	25	63	56	

開設単位数の※は学則第14条第4項に規定する科目である。

注意事項

- 必修科目（系基幹科目）は、全て履修すること。
- 選択科目（分野展開・系発展科目）については、*を付した分野より必ず1分野選び、3科目全て履修すること。
注：選択した分野以外の「選択科目（分野展開・系発展科目）」も履修可とするが、*を付していない分野の科目は、時間割編成上履修できない場合がある。
- 校外実習は、長期休業期間中に集中講義の形式で実習を主体として実施される科目である。
履修方法についての詳細は、校外実習に関する規則を参照のこと。
- 選択科目の課題研究Ⅰ・Ⅱの履修方法等についての詳細は、課題研究に関する規則を参照のこと。
- 電気主任技術者の認定を受ける者は、上記開設単位数欄中の認定に該当する科目を全て修得すること。

情報・ソフトウェア系

区分	授業科目	開設 単位数	学年別配当単位数					備考		
			1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	応用数式	1				1				
	微分方程式	1				1				
	確率統計	1			1					
	応用物理Ⅰ	1			1					
	応用物理Ⅱ	1			1					
	電気電子基礎	2		2						
	電気磁気学	1			1					
	論理回路	※2			2					
	情報数学	※2			2					
	プログラミング言語	2		2						
	プログラミング演習	2		2						
	応用プログラミング	2			2					
	情報工学基礎実習Ⅰ	2			2					
	情報工学基礎実習Ⅱ	2			2					
	社会実装演習Ⅰ	2				2				
	社会実装演習Ⅱ	2				2				
	情報リテラシー	2	2							
	基礎製図	1	1							
	ものづくり実験実習M	1	1							
	ものづくり実験実習E	1	1							
	ものづくり実験実習J	1	1							
	ものづくり実験実習C	1	1							
	系導入セミナー	2	2							
	未来創造セミナー	1			1					
	分野展開セミナー	1			1					
	分野専門セミナー	1				1				
	卒業研究	10					10			
必修科目単位数計		48	9	6	16	7	10			
必修科目（系基幹科目）	数値解析	1				1				
	データ構造とアルゴリズムⅠ	※2				2				
	データ構造とアルゴリズムⅡ	※2				2				
	情報理論	※2					2			
	暗号理論	1					1			
	情報セキュリティ特論	1					1			
	画像処理	※2				2				
	CG	※2					2			
	計算機アーキテクチャ	※2				2				
	オペレーティングシステム	※2					2			
	ネットワークシステム	※2				2				
	データベース	※2					2			
	モデリング	※2					2			
	デジタル信号処理	※2					2			
	センサ工学	1					1			
	知能ロボティクス	※2					2			
	情報特論	1					1			
	情報倫理	※2				2				
	情報処理実習Ⅰ	1				1				
	情報処理実習Ⅱ	1				1				
	地域創造型	1				1				
	実践技術Ⅰ	1				1				
	実践技術Ⅱ	1					1			
	工業英語	※2					2			
	系基幹科目単位数計		38	0	0	0	17		21	
	選択科目（分野展開・系発展科目）	環境・エネルギー概論Ⅰ	※2				2			* 環境・エネルギー分野
		環境・エネルギー概論Ⅱ	※2				2			
環境・エネルギー特論		※2					2			
機械学		※2				2		* 知能・システム分野		
アドバンスロボティクス		※2				2				
知能・システム概論		※2					2			
先端機能性材料工学		※2				2		加工・マテリアル分野		
マテリアル特性評価工学		※2				2				
先端複合加工工学		※2					2			
データサイエンス		※2				2		* インフォマティクス分野		
パターン認識		※2				2				
計算幾何学		※2					2			
電子工学		※2				2		エレクトロニクス分野		
電気通信		※2				2				
デジタル信号処理		※2					2			
化学プロセス工学Ⅰ		※2				2		化学プロセス分野		
化学プロセス工学Ⅱ		※2				2				
化学プロセス工学Ⅲ		※2					2			
生化学Ⅰ		※2				2		生物機能分野		
生化学Ⅱ		※2				2				
微生物工学		※2					2			
分野展開・系発展科目単位数計		42	0	0	0	28	14			
選択科目	校外実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB	6			1～6			校外実習ⅠAまたは校外実習ⅠBのいずれかを必ず履修修得すること		
	課題研究Ⅰ	5	1～5							
	課題研究Ⅱ	4	1～4							
選択科目開設単位数計		95	7	7	9	56	46			
選択科目履修可能単位数計		65	7	7	9	36	36			
専門科目開設単位数合計		143	16	13	25	63	56			

開設単位数の※は学則第14条第4項に規定する科目である。

注意事項

- 必修科目（系基幹科目）は、全て履修すること。
- 選択科目（分野展開・系発展科目）については、*を付した分野より必ず1分野選び、3科目全て履修すること。
注：選択した分野以外の「選択科目（分野展開・系発展科目）」も履修可とするが、*を付していない分野の科目は、時間割編成上履修できない場合がある。
- 校外実習は、長期休業期間中に集中講義の形式で実習を主体として実施される科目である。
履修方法についての詳細は、校外実習に関する規則を参照のこと。
- 選択科目の課題研究Ⅰ・Ⅱの履修方法等についての詳細は、課題研究に関する規則を参照のこと。

化学・バイオ系

区分	授業科目	開設 単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	※2				2		
	確率統計	※2					2	
	応用物理Ⅰ	※2			2			
	応用物理Ⅱ	※2				2		
	基礎有機化学	1		1				
	有機化学Ⅰ	1			1			
	無機化学Ⅰ	※2			2			
	分析化学	1		1				
	物理化学Ⅰ	1			1			
	基礎化学工学Ⅰ	1			1			
	単位操作	1			1			
	基礎生物工学Ⅰ	1			1			
	基礎生物工学Ⅱ	1			1			
	分析・無機化学実験	4		4				
	有機化学実験	2			2			
	物理化学実験	2			2			
	化学工学・バイオ実験Ⅰ	4				4		
	化学工学・バイオ実験Ⅱ	2					2	
	情報リテラシー	2	2					
	基礎製図	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅲ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅳ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅴ	1	1					
	ものづくり実験実習Ⅵ	1	1					
	系導入セミナー	2	2					
	未来創造セミナー	1			1			
	分野展開セミナー	1			1			
	分野専門セミナー	1				1		
	卒業業務研究	10					10	
必修科目単位数計			54	9	6	16	9	14
必修科目(系基幹科目)	有機化学Ⅱ	1				1		
	高分子化学Ⅰ	1					1	
	無機化学Ⅱ	※2				2		
	無機材料化学	1					1	
	機器分析	1				1		
	物理化学Ⅱ	※2				2		
	物理化学Ⅲ	※2				2		
	物理化学Ⅳ	※2					2	
	反応応工学	※2				2		
	基礎化学工学Ⅱ	1				1		
	化学プラント設計Ⅰ	※2					2	
	化学プラント設計Ⅱ	※2					2	
	計測制御工学	※2					2	
	生物反応工学	1				1		
	情報処理	1				1		
	環境工学	※2					2	
	機械・電気工学概論	※2					2	
	地域創造学	1				1		
	実践技術Ⅰ	1				1		
	実践技術Ⅱ	1					1	
	工業英語	※2					2	
系基幹科目単位数計			32	0	0	0	15	17
選択科目(分野展開・系発展科目)	環境・エネルギー概論Ⅰ	※2				2		* 環境・エネルギー分野
	環境・エネルギー概論Ⅱ	※2				2		
	環境・エネルギー特論	※2					2	
	機械学	※2				2		知能・システム分野
	アドバンスロボティクス	※2				2		
	知能・システム概論	※2					2	
	先端機能性材料工学	※2				2		* 加工・マテリアル分野
	マテリアル特性評価工学	※2				2		
	先端複合加工工学	※2					2	
	データサイエンス	※2				2		インフォマティクス分野
	パターン認識	※2				2		
	計算幾何学	※2					2	
	電子工学	※2				2		エレクトロニクス分野
	電気通信	※2				2		
	デジタル信号処理	※2					2	
	化学プロセス工学Ⅰ	※2				2		* 化学プロセス分野
	化学プロセス工学Ⅱ	※2				2		
	化学プロセス工学Ⅲ	※2					2	
	生化学Ⅰ	※2				2		* 生物機能分野
	生化学Ⅱ	※2				2		
	微生物工学	※2					2	
分野展開・系発展科目単位数計			42	0	0	0	28	14
選択科目	校外実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB	6				1～6		校外実習ⅠAまたは校外実習ⅠBのいずれかを必ず履修修得すること
	課題研究Ⅰ	5			1～5			
	課題研究Ⅱ	4			1～4			
	選択科目開設単位数計	89	7	7	9	54	42	
選択科目履修可能単位数計			59	7	7	9	34	32
専門科目開設単位数合計			143	16	13	25	63	56

開設単位数の※は学則第14条第4項に規定する科目である。

注意事項

- 必修科目(系基幹科目)は、全て履修すること。
- 選択科目(分野展開・系発展科目)については、*を付した分野より必ず1分野選び、3科目全て履修すること。
注: 選択した分野以外の「選択科目(分野展開・系発展科目)」も履修可とするが、*を付していない分野の科目は、時間割編成上履修できない場合がある。
- 校外実習は、長期休業期間中に集中講義の形式で実習を主体として実施される科目である。
履修方法についての詳細は、校外実習に関する規則を参照のこと。
- 選択科目の課題研究Ⅰ・Ⅱの履修方法等についての詳細は、課題研究に関する規則を参照のこと。

3 編入学時に必要な経費（令和6年度入学者の場合）（注）在学中に授業料が改定になる場合があります。

入 学 料	84,600 円	日本スポーツ振興センター掛金	1,550 円
授 業 料	234,600 円	後援会入会金	10,000 円
教科書代・教材費等	約 50,000 円	後援会費	27,000 円
学生会入会金	2,000 円	企業見学旅行積立金	約 50,000 円
学生会費	8,500 円	TOEIC L&R IP 受験料	4,230 円
学生事故対策資金	500 円	PROG(ジェネリックススキル診断テスト)	3,410 円
		合 計	約 476,000 円

4 入学料・授業料の減免

「高等教育の修学支援新制度」により、日本学生支援機構の給付奨学金を受けられる学生は、入学料・授業料減免の申込みを行うことにより、入学料・授業料の減免が受けられます。

減免される額は、収入状況により全額、1/3、2/3 の額となります。

5 奨学金制度

日本学生支援機構が行う奨学金として、原則として返済不要な給付奨学金と返済が必要な貸与奨学金があります。貸与奨学金には第一種奨学金（利息なし）と、第二種奨学金（年利率 3%を上限とした利息あり）があり、これらの奨学金の併用貸与もできます。

給付奨学金は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯で学習意欲がある学生に対し審査のうえ支給され、貸与奨学金は、学業、人物ともに優れ、かつ学資の支弁が困難と認められる者に対し審査のうえ貸与されます。

給付奨学金

区分	支給月額		
	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
自宅	17,500	11,700	5,900
自宅外	34,200	22,800	11,400

※ 第Ⅰ区分は市町村民税所得割が非課税の世帯、第Ⅱ区分と第Ⅲ区分はそれに準ずる世帯です。
また、生活保護世帯等は月額が異なります。なお、第一種奨学金を同時に受ける場合は第一種奨学金の額が減額されます。

貸与奨学金

区分		貸与月額			最高月額
第一種 (無利子)	自宅	20,000	30,000		45,000
	自宅外	20,000	30,000	40,000	51,000
第二種 (有利子)		20,000 円から 120,000 円のうち 10,000 円単位で選択			

※ 第一種奨学金（4 年生以上）では、申込時における前年 1 年間の家計収入が一定額以上の方は、最高月額を除く月額から選択することになります。

なお、日本学生支援機構のほかに、地方公共団体、その他の団体でも奨学生を募集しています。

6 寄 宿 舎

本校には、自宅からの通学が困難な地域の学生のため寮があります。男子寮は「須仰寮」、女子寮は「白萩寮」と呼び、男子寮定員 312 名、女子寮定員 66 名で、選考の上、原則として自宅からの通学が困難な学生に入寮を許可することになっています。

学寮に入る場合に要する経費は、次のとおりです。

〈寮 費〉 (令和 6 年度入学者の場合)

寄 宿 料	個 室	800 円	(月額)
	複数人部屋	700 円	(月額)
寮 費 (入寮費)		3,000 円	(新入寮時のみ)
〃 (運営費)		140,000 円	(年額)
〃 (食 費)		約 400,000 円	(年額)
寮生会費		4,000 円	(年額)
寮生保護者会費		4,000 円	(年額)

主 な 行 事

4 月	新入寮生歓迎会
5 月	レクリエーション大会、春季防火避難訓練
7 月	寮祭 (野外パーティー等)
11 月	秋季防火避難訓練
12 月	クリスマス会
2 月	卒業生を送る会

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

教育目標に基づく以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得したものに対して、準学士課程の卒業を認定します。

- ① 国際社会の一員として活動できる。
- ② 誠実で豊かな人間性と広い視野をもつ。
- ③ 広い分野の基礎知識と優れた創造力・開発力をもつ。
- ④ 継続的に努力する姿勢とさかんな研究心をもつ。
- ⑤ 協調性と積極性をもち信頼される。
- ⑥ 技術と社会や自然との係わりを理解し社会的責任を自覚できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

○教育課程の編成方針

ディプロマ・ポリシーに基づき、一般科目、専門科目及び実験実習を低学年から高学年にかけて適切に配置し、工学分野の知識および技術を効果的に修得できるように体系的に教育課程を編成します。教育課程の編成方針を以下に示します。

- ① 外国語でのコミュニケーション能力を育成するため、低学年から高学年をととして英語に関する科目を配置する。さらに高学年において第二外国語を配置する。
- ② 誠実で豊かな人間性を育成し、広い視野を獲得させるため、人文社会系科目を配置する。
- ③ 様々な視点でものごとを論理的に考える力を育成するため、工学に関する基礎科目を配置する。
- ④ 専門的な知識・技術を育成するため、工学基礎科目と連携させながら、学年の進行とともに専門科目数を多く配置する。また、基礎知識と専門分野の知識・技術を応用する力を育成し創造性を育むため、実験実習を配置する。さらに、実践的な課題解決力を育成するため、課題解決型科目を配置する。
- ⑤ 自らの考えを持ちつつ他者と協調して活動する力を育成するため、グループワーク、ディスカッション及びプレゼンテーションを取り入れた科目を配置する。
- ⑥ 技術者としての社会的な責任を自覚し適切な判断ができる力を育成するため、倫理観を育む科目を配置する。また、実際に社会を経験するためにインターンシップ科目を配置する。

○教育課程の実施方針

編成した教育課程をととして学修の成果が効果的に得られるように、教育課程の実施方針を以下に示します。

- (1) ディプロマ・ポリシーに定めた能力の育成を教育課程の中で実現させるようシラバスを作成し、それに基づいて授業を実施します。
- (2) 学生の主体的学習を促進するため、授業時間外における様々な取り組みを推奨します。
- (3) 学修成果は成績評価で判断します。成績評価は各科目に掲げられた授業の到達目標に対する達成度について、成績評価基準に基づいて行います。

○成績評価基準

成績評価は 100 点法により行い、学業成績を「優」、「良」、「可」及び「不可」の評語によって表し、その区分は下記のとおりとします。ただし、特別活動の評価の区分は、合格又は不合格とします。

評語 \ 学年	第 1 学年から第 3 学年	第 4 学年及び第 5 学年
	第 1 学年から第 3 学年	第 4 学年及び第 5 学年
優	80 点以上	80 点以上
良	70 点以上 80 点未満	70 点以上 80 点未満
可	50 点以上 70 点未満	60 点以上 70 点未満
不可	50 点未満	60 点未満

郵便局（ゆうちょ銀行）からの検定料の振込みについて

一関工業高等専門学校 総務課財務係

検定料は郵便局（ゆうちょ銀行）からも振込みが可能です。ただし、以下のとおり取扱いにご注意ください。

○ゆうちょ銀行の総合口座から振込むことが可能です。現金での振込みはできません。

※お持ちの通帳が振込可能かは、郵便局（ゆうちょ銀行）窓口でご確認ください。

○本校指定の振込用紙（②）に加え、ゆうちょ銀行の「振込依頼書（兼振替払出請求書）」（①）が必要です。

○郵便局（ゆうちょ銀行）の窓口で、下記の「振込依頼書（兼振替払出請求書）」（①）を受け取り、下記の記載例に従って所要事項を記載し、「届出印」及び「通帳」（又はキャッシュカード）を持参のうえ、郵便局（ゆうちょ銀行）窓口で振込みを依頼してください。

○本校での検定料の入金確認のため「振込金証明書」が必要となります。本校指定の振込用紙（②）一式を郵便局（ゆうちょ銀行）窓口へ提出し、本校指定の振込用紙右端の「振込金証明書」の「取扱銀行領収印」欄への領収印の押印を依頼してください。

○郵便局（ゆうちょ銀行）で領収印を押印してもらった「振込金証明書」を、他の提出書類とともに本校に提出してください。

①【ゆうちょ銀行】振込依頼書（兼振替払出請求書〔電信扱い〕）

8000034 振込依頼書（兼振替払出請求書）〔電信扱い〕

※太枠からはみ出さないようにボールペンではっきりとご記入ください。 ※印欄は、該当の項目にレ印をつけてください。
△ 総合口座の場合は通帳に記載のある方のみご記入ください。

ご依頼日 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日 ※料金は、振込金とは別に、払出口座の預り金からいただきます。 ※お受取人負担のお取扱いはできません。

金融機関名 ☐ 銀行 ☐ 信金 ☐ 信組 ☐ 郵便局 ☐ 協同 ☐ その他 支店名

振込種目 ☐ 1 普通 (総合) ☐ 2 当座 ☐ 3 振替 ☐ 4 貯蓄 ☐ 9 その他 () 金額 ¥16500 ※金額の欄に「¥」をご記入ください。

おなまえ フリガナ

振込金額 5万円未満 5万円以上
料金 (消費税込) 660円 880円

おとこ 郵便番号 () 受験者の住所を記載してください。
フリガナ
おなまえ 受験者本人の氏名を記載してください。

ご依頼人 日中ご連絡先電話番号 受験者の電話番号を記載してください。 通知番号

払出口座番号 入学金を支払う口座の番号等を記載してください。 お届け印 (印)

払出口座名義人 (代理人) おとこ 郵便番号 () ※口座名義人がご依頼人の場合、ご記入は不要です。
おなまえ

科目 取扱年月日 取扱店番号 取扱時間 処理通番 振込先 受払通番 代行店番号

請求種別 振込金額 円 振込料金 円 (消費税等を含む。)

合計金額 円 払出明細番号

＜取扱い店使用欄＞
電話なし 1 ☐ 通帳保証 2 ☐ カード 3 ☐

本・代・使 () 本・代・法 備 後 印 差 出 受
確認 () 任・顧 考

(注) OCR用 (取扱郵便局・取扱店一受付料金事務センター) #64600(27-TF) ゆうちょ銀行

「ゆうちょ銀行以外の銀行宛」と記載のある用紙を使ってください。

本校指定の振込依頼書で振込先を確認しますので、振込先の記載は不要です。

記載は不要です。

受験者本人以外の名義（保護者の名義など）の口座から振込む場合にはこちらをご記入ください。

②【本校指定】振込依頼書（領収書・振込金証明書）

※①の「振込依頼書（兼振替払出請求書）」のほか、下記の本校指定の振込用紙を郵便局（ゆうちょ銀行）窓口
提出し、**右端の「振込金証明書」に領収印を押印してもらい、本校に提出**してください。

左端の振込依頼書は記載は不要ですが、郵便局（ゆうちょ銀行）で保管します。

振込依頼書		電信振	
依頼日 令和 年 月 日		手数料負担人	
振込先 岩手銀行 一関支店		一関工業高等専門学校入学検定料	
普通預金 口座番号 2036204		(編入学選抜)	
受取人 独立行政法人国立高等専門学校機構本部		振込額 ￥ 1 6 5 0 0	
振込依頼人		手数料	
フリガナ			
氏名			
志望系			
住所			
TEL() -			

精査印	振替検印	振替相手科目	振替係印

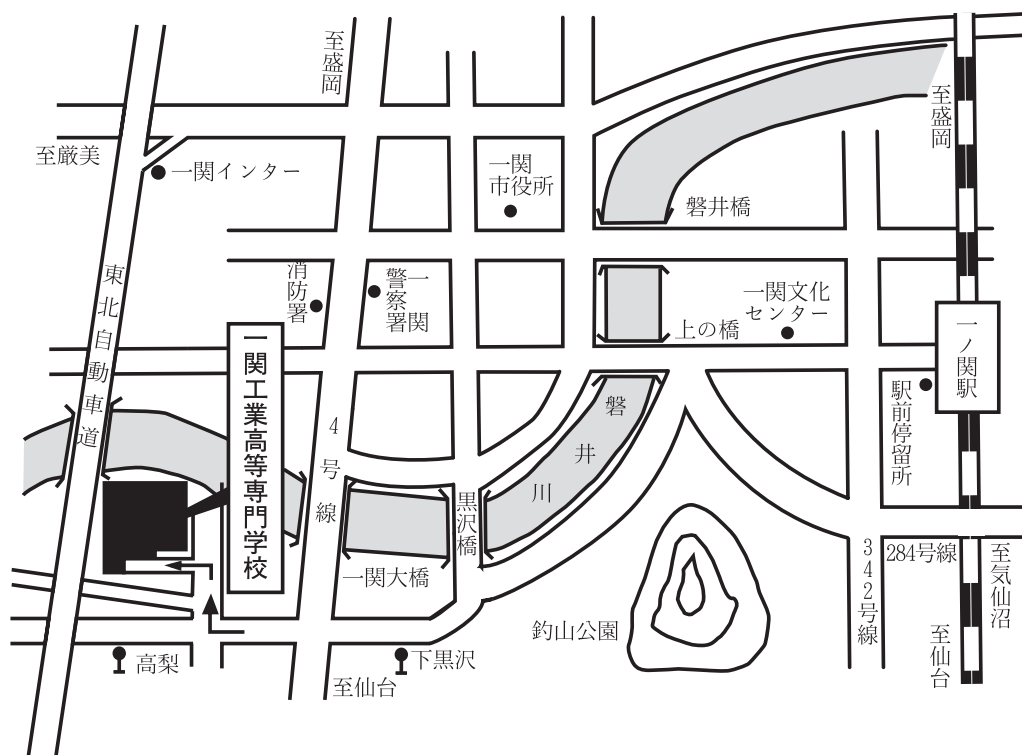
【受験者の皆さんへ】
ATM（現金自動預払機）による振込はしないでください。

(銀行控)

一関工業高等専門学校入学検定料 (編入学選抜)	
領収書	
令和 年 月 日	
金額	￥ 1 6 5 0 0
フリガナ	
受験者	氏名
志望系	系
振込手数料	
上記のとおり領収しました	
銀行	支店
取扱銀行領収印 収入印紙	
銀行領収印のないものは無効とします。	
(本人控)	

一関工業高等専門学校入学検定料 (編入学選抜)	
振込金証明書	
令和 年 月 日	
金額	￥ 1 6 5 0 0
フリガナ	
受験者	氏名 受験者氏名 志望系を記載
志望系	系
振込手数料	
提出必要	
取扱銀行領収印	
収入印紙	
ゆうちょ銀行 領収 R.O.O.O	
銀行領収印のないものは無効とします。	
(提出用)	

案 内 図



バス：ＪＲ一ノ関駅から一関市営バスで約10分（平日のみ）
 8番のりば 赤猪子行き 高梨バス停下車 徒歩約5分
 ＪＲ一ノ関駅から栗原市民バスで約13分
 4番のりば 伊豆三丁目行き 高梨バス停下車 徒歩約5分
 徒歩：ＪＲ一ノ関駅より40分
 タクシー利用：ＪＲ一ノ関駅より約10分
 自動車：東北自動車道一関インターより約10分

キャンパスマップ

